
スポーツ科学専攻における教員養成に対する理念等

教員養成に対する理念・構想・養成する教員像

【スポーツ科学専攻】

中京大学の理念として、以下の3点が掲げられている。①大学の使命が研究と教育に存することに鑑み、学術の研鑽に尽力するとともに、優秀な人材の育成に努力する。この両者を分断させることなく、密接な連携を保ちながら、研究と教育を高い次元で調和させてゆく。建学の精神にいう、「学術の場では学術の研鑽とともに、ジェントルマンシップ、レディシップを醸成陶冶する」は、この理想的な調和を成し遂げてこそ、達成されるものと信じる。②独自の使命として、学術とスポーツの調和を目指す。スポーツは肉体を鍛え、技を競うものとして発展したが、その過程で、競技力の向上にとどまらず、人間の全人的成長に必須な普遍的精神をも醸成してきた。建学の精神に謳われるスポーツマンシップの四大綱には、規範を遵守し、他者と協働しつつ、社会の発展に貢献してゆくための、拠るべき指針が明確に示されている。本学は、このスポーツマンシップを学術と結び合わせて、自由にして闊達な調和の道を追求してゆく。③研究と教育を調和させ、さらに学術とスポーツを調和させた、躍動的で真剣味あふれる学びの殿堂でありたいと願う。ここでいう調和とは、単に二つのものを釣り合わせるだけでなく、両者を止揚し、より高次のものへ発展させてゆく、創造的調和を意味する。ここに本学は、この創造的調和を旗じるしとして不断に前進し、多様で豊かな学術成果を生み出すとともに、社会に貢献できる優れた人材を輩出してゆくことを宣言する。スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻は、このような梅村学園の建学の精神に立ちつつ、研究と教育に邁進し、社会の多様な課題に挑んで、その健全な発展に貢献するよう努める中京大学におかれている。教員養成に関わる博士前期課程では、体育学・スポーツ科学・健康科学の領域における専門知識を修得させ、博士後期課程に進学して体育学・スポーツ科学・健康科学研究の専門職を目指す人材を養成するとともに、指導力向上を志す社会人の再教育を行い、高度の技術と指導力を備えた人材を養成することを目的としている。スポーツ科学専攻における教員養成においては、研究と教育の調和、学術とスポーツの調和、そしてこれらの創造的調和という理念に基づいて、実社会で活躍できる能力と豊かな人間性を身につけた教員の輩出を目指している。

スポーツ科学専攻の特徴として、①健康づくりに関する研究、②体力づくりに関する研究、③運動の精神的効果に関する研究、④スポーツの社会科学研究、⑤スポーツの歴史や文化に関する研究、⑥生涯スポーツに関する研究、⑦競技力向上に関する研究といった多面的な研究分野を有している。そのため、カリキュラムの編成、研究指導においては、スポーツ文化・社会科学系、スポーツ認知・行動科学系、スポーツ生理学系、スポーツ健康科学系、応用スポーツ科学系の5つの学系を設け、学生はいずれかの学系に所属する。総合科学としての体育学・スポーツ科学・健康科学の特徴をふまえ、授業科目は各研究系に開設された授業科目と各系共通の授業科目から成り立つ。教員を目指す学生には、学校現場で求められる様々なニーズに適切に対処できるようになるために、高度でかつ多面的な研究に取り組めるような体制となっている。

このような理念・構想に基づいた教員養成によって、保健と体育という分野を合わせ持つ保健体育科という教科について、豊かな人間性を有し、かつ高度の専門性と実践的指導力を身につけた研究力と実務性を備えた教員像を目指している。

教職課程の設置趣旨（専攻等ごと）

【スポーツ科学専攻】

スポーツ科学専攻は、本学園の理念と大学における教職課程の設置趣旨のもと、運動・スポーツに関わる高度な専門知識と技能を身につけた学生が、教育の現場でその使命感、責任感、教育的愛情を持って、将来を担う子どもたちの指導をして欲しいとの願いを持ち、常に教師として自覚を持って行動し、教育現場において即戦力となる人材育成を目標とする。特に、スポーツ科学専攻に教職課程を設置する趣旨は、子どもたちの多様性と心身の発達段階に応じた指導力を修得するカリキュラムを備えた研究科教育を通じて、最新の理論と確かな実技力、実践力を有する教員を養成することである。

《中学校教諭専修免許状：保健体育の設置趣旨》

スポーツ科学専攻の5つの系の特色は次のとおりである。

①スポーツ文化・社会科学系

スポーツに関わる思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを、幅広い問題意識のなかで捉え、これを科学的方法論に即して分析・検討を加える。

②スポーツ認知・行動科学系

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

③スポーツ生理学系

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

④スポーツ健康科学系

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康の関連を、傷病の予防および健康の維持・増進の観点から研究する。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

⑤応用スポーツ科学系

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多分野、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

学生が、これらのいずれかの系に所属して専門性を高めるとともに、共通科目や他系の科目から10単位以上を修得して、研究に必要な知識を獲得したり、他系の研究についての見識を深めたりするように図っている。

各系共通科目の「スポーツ科学研究法Ⅰ～Ⅲ」では、研究デザインや疫学的手法、スポーツ科学の研究に必要なコンピュータ関係の知識、英語論文の書き方などを学ぶことができる。「スポーツ科学研究総論」では、オムニバス形式で各系の教員が担当し、研究の概要を知らせるとともに、研究における倫理的配慮の問題や倫理審査のための研究計画書の作成法についても扱う。さらに、「保健体育授業研究法」では、中等教育段階での保健体育科の体育・保健の授業の質の向上を図るために、授業分析を行って授業評価を行うための方法論について学ぶ。前半では基本となる研究手法についての理解と習得を図り、後半では授業場面を撮影したビデオ画像を利用して、分析研究の実習を行う。

スポーツ科学専攻でこれらの科目を学び、専修免許状を取得する学生は、中学校保健体育教員として次のような活躍が期待される。

保健体育科の体育分野の指導内容については、体育で学ぶ「知識」の学習について、実技として実践で学ぶ内容と体育理論としてまとまりで学ぶ内容に整理されている。スポーツ科学専攻で保健体育科の指導内容の本質を理解し、教材研究や授業づくりの能力を高めたことにより、体育理論の授業でスポーツ文化・社会科学系の科目で学んだ専門知識を活かした授業を行うことが期待できる。また、実技の指導においても、スポーツ認知・行動科学系、スポーツ生理学系、応用スポーツ科学系の科目で学んだ専門知識を活かし、実践的指導力を高めることが期待できる。

保健体育科の保健分野の目標においては、健康・安全に関して小学校段階での実践的な理解をもとに、中学校では科学的な理解ができることを掲げている。スポーツ健康科学系の科目で学んだ専門知識を活かし、保健分野の指導において高度な科学的な知識に基づいた授業が展開できる。

《高等学校教諭専修免許状：保健体育の設置趣旨》

スポーツ科学専攻の5つの系の特色は次のとおりである。

①スポーツ文化・社会科学系

スポーツに関わる思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを、幅広い問題意識のなかで捉え、これを科学的方法論に即して分析・検討を加える。

②スポーツ認知・行動科学系

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

③スポーツ生理学系

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

④スポーツ健康科学系

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康の関連を、傷病の予防および健康の維持・増進の観点から研究する。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

⑤応用スポーツ科学系

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多分野、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

学生が、これらのいずれかの系に所属して専門性を高めるとともに、共通科目や他系の科目から10単位以上を修得して、研究に必要な知識を獲得したり、他系の研究についての見識を深めたりするように図っている。

各系共通科目の「スポーツ科学研究法Ⅰ～Ⅲ」では、研究デザイン、研究実施、学会発表、論文投稿、スポーツ科学の研究に必要なコンピュータ関係の知識、英語論文の書き方などを学ぶことができる。「スポーツ科学研究総論」では、オムニバス形式で各系の教員が担当し、研究分野のトピックスや研究成果の社会還元とともに、研究における倫理的配慮の問題や高等教育機関におけるハラスメント対応についても扱う。さらに、「保健体育授業研究法」では、中等教育段階での保健体育科の体育・保健の授業の質の向上を図るために、授業分析を行って授業評価を行うための方法論について学ぶ。前半では基本となる研究手法についての理解と習得を図り、後半では授業場면을撮影したビデオ画像を利用して、分析研究の実習を行う。

スポーツ科学専攻でこれらの科目を学び、専修免許状を取得する学生は、高等学校保健体育教員として次のような活躍が期待される。

保健体育科の科目体育の指導内容については、体育で学ぶ「知識」の学習について、実技として実践で学ぶ内容と体育理論としてまとまりで学ぶ内容に整理されている。スポーツ科学専攻で保健体育科の指導内容の本質を理解し、教材研究や授業づくりの能力を高めたことにより、体育理論の授業でスポーツ文化・社会科学系の科目で学んだ専門知識を活かした授業を行うことが期待できる。また、実技の指導においても、スポーツ認知・行動科学系、スポーツ生理学系、応用スポーツ科学系の科目で学んだ専門知識を活かし、実践的指導力を高めることが期待できる。

保健体育科の科目保健の目標においては、健康・安全に関して小学校段階での実践的な理解、中学校での科学的な理解をもとに、高等学校では総合的な理解ができることを掲げている。スポーツ健康科学系の科目で学んだ専門知識を活かし、保健分野の指導において高度な科学的な知識に基づいた授業が展開できる。さらに、全学共通科目で身につけた幅広く深い教養と総合的な判断力により、高等学校レベルで求められる科目保健の総合的な理解にも対応できる。